

今月のテーマ  
地方の時代

田上市長の  
心と手  
～自らの思いを皆さんに語るコラム～

私が学生だったころ、長洲<sup>ながす</sup>二神奈川県知事らによって「地方の時代」が提唱されました。これまで国が県や市町村を主導してきたけれど、県や市町村が自分で考えて、自分の力で地方を良くしていく時代が来たのだ、というメッセージは、とても魅力的でした。

でも地方自治の世界に飛び込んでみると、現実とはズバリと中央集権でした。実際に地方分権の流れが動き始めるまでに20年ほどの時間がかかりました。それでも、私が40歳を過ぎるころ、動かなかった川の流れが動き始めました。上下関係だった国、県、市町村の関係が、少しずつですが、変わってきたのです。

ここ数年の地方分権の動きとして、それまでは国が全国一律に決めていたルールを、自治体が変わってもいいということになりました。まだ限られた範囲ですが、積極的な自治体はさっそく自分のまちに合うようにルールを変え始めました。長崎市もその一つです。

国ルールでした。でも坂の多い長崎には、もつと勾配のきつい道路がたくさんあります。それに、全国ルールに合わせるのと、新しく市道をつくるときに長さがより多く必要で、その分、建設に要する時間や予算が多くなってしまう。少し勾配がきついても安全性は確保できるので、長崎市では「17%まで」というルールに変えることにしました。長崎市独自の基準、つまり、長崎ルールです。

また長崎には、幅が狭い一方通行の道路がたくさんあります。トラックなどの大型車が通るとき、道路標識にぶつかってしまうこともあります。そこで車の通行の邪魔になる場合は、道路標識の大きさを小さくすることができるといふルールも作りました。道路だけでなく公園についても基準を見直しました。

もともと地方独自の政策の中にも、長崎ならではの工夫が施されているものがあります。

例えば赤ちゃんに本をプレゼントする「はじめまして絵本」事業。全国的には「ブックス



読書習慣への第一歩

タート」という名前前で実施している自治体が多いのですが、長崎市の仕組みは少し変わっています。4か月児健診の時に本を直接渡すのではなく、引換券を渡して、自宅の近くの公民館やふれあいセンターの図書室で本に引き換えることができるようになっているのです。

これは、全国最高レベルの図書ネットワークを持つ長崎市ならではの仕組みです。単に本をプレゼントするのではなく、自宅の近くに図書室があることを知ってもらい、そこにある子ども用の本も利用してもらおうというのです。

「地方の時代」はまだまだ道半ばですが、確実に進んでいくはず。いろいろな課題を、自分たちに合った方法で、少しでも早く安く解決できるし、個性を発揮して、まちをもっと魅力的にできるからです。それを生み出す力をもった市役所、それを実現できるまちでありたいと思います。

ながさき  
フチ旅行  
風と海を感じて  
伊王島灯台

出かけて見る・知るまちのオススメスポット



長崎港の入口に浮かぶ伊王島の北端にあるのが伊王島灯台。明治3(1870)年に点灯し、長年、海の安全を見守ってきました。灯台までの遊歩道は見晴らしがよくさわやかな風も吹くので、まるで鳥になった気分が散策できます。

伊王島灯台のそばには、灯台記念館があります。もとは、灯台職員の官舎として明治10年に建てられたもの。現存する日本最古の無筋コンクリート造の建物で、県の有形文化財です。

記念館には、灯台で使われていた電球やレンズなどが展示されています。これからは、灯台職員たちの海の安全に対するひたむきな思いがにじみ出ています。

美しい自然とそこで生きてきた人々の営みの素晴らしさ。ぜひ伊王島で堪能ください。

特集

市政

長崎市民

「ご意見、プレゼント」

生活情報

健康

子育て

福祉

被爆者援護

講演・講座

もよおし

おしらせ

募集